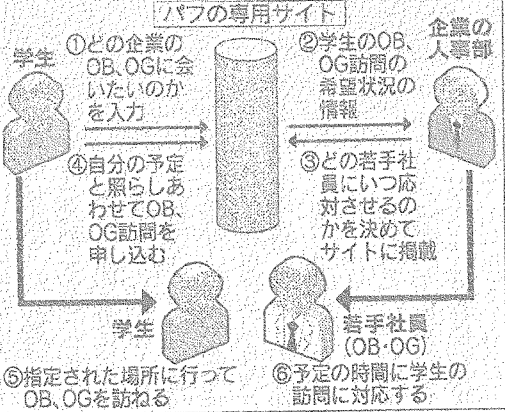


志望企業で働く先輩紹介

学生の就職支援と企業の採用コンサルティングを手がけるパフ(東京・中央、釘崎清秀社長)は就職活動中の大学生を対象に、志望企業で働いている卒業生への訪問申し込み代行サービスを十月に始める。入社数年の若手OB・OGに会ったうえで志望企業を絞り込みたいという学生の声に応える。学生の人柄や適性を見極めたいという企業の要望にも対応する。

パフが始めるOB、OG訪問申し込み代行サービスの流れ



就活学生向け 訪問申し込みサイト

まず早大・慶応大対象 パフ、10月開始

まず早稲田大学と慶応義塾大学の学生向けに始める。軌道に乗れば対象大学を増やしていく。十月に専用サイトを設け、学生にどの企業のOB・OGに会いたいのかを入力させて、その情報を企業の人事部に送る。企業はパフから受け取った情報を見ていつだれに対応させるのかを決めてパフの専用サイトに掲載する。学生はサイトに載った情報を見て、OB・OG訪問を申し込む。同社を通じたOB・OG訪問に応じる企業を四十社前後集める。このサービスを学生に告知するためのフリーペーパーを一万部発行し、早慶の学生に手渡す。企業は十月一日から来年一月末まで

の間に一社につきのべ二十五人の学生の訪問を受ける。費用は学生からは徴収せず、企業から受け取る。サイトやフリーペーパーでの広告掲載費も含めて一社につき五十万円を受け取る。

日本経済新聞社とNTTテレソナントの共同サービスが七月に実施した来春卒業予定の大学生の就職活動調査によると、学生が入社企業を絞り込む際に重視する項目(複数回答)として「やりたいう仕事ができる」(五九・八%)に続いて「社員や職場の雰囲気」が四〇・二%で二位に入った。就職活動でOB・OG訪問を重視する学生が多いことを示している。

企業も入社して数年で退職してしまう若手社員が多いことに頭を悩ませている。採用選考の過程でできるだけ学生と接する場面を増やしたいという人事担当者は多い(パフの安藤直人氏)という。